

いま災害が発生したらどうしますか？
大切ないのちを守るために

いまから防災

～ 今すぐ日頃の備えを ～

防災マップをみてみよう！



防災マップを見て自宅のまわりの災害リスクや、最寄りの避難ルートを確認しよう！

防災マップ&各種ハザードマップは市役所本庁舎、各支所で配布しています。

詳細はこちら



持ち出し品の再点検！



飲料水(500ml×2本)や、非常食、常備薬、生理用品などの衛生用品等の必需品は性別・家族構成・年齢等で人それぞれです。

必要なものは何か再点検しよう。

災害用伝言サービス【171】

災害時に、自分の安否を大切な人に伝えたり、相手の安否を確認したりすることができる声の伝言板です。

Step1 **171** 災害用伝言ダイヤル

Step2 伝言を録音する **1**
伝言を再生する **2**

Step3 録音または再生する番号を入力 (XXXX)XX -XXXX
固定電話の場合は、市外局番から入力
携帯電話番号でも録音・再生可能

Step4 ガイダンスに従い録音または再生

毎月1日と15日に体験できるので、練習しよう！

防災メール

今すぐ登録！
防災メールは、自分の命、大切な人を守るための、防災の第一歩です。

こちらのQRコードを読み取って空メールを送信し登録



災害はいつ起きるかわからない。

今すぐできることから日頃の備えを進めよう！

【いわき市防災イメージキャラクター】
防災おじさん



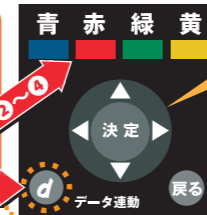
情報収集手段を知ろう

テレビ

各放送局の災害情報などから必要な情報をこまめに収集するとともに、NHK総合のデータ放送を活用しましょう。

NHK総合にチャンネルを合わせ、

- ① リモコンの「d」ボタン
- ② 赤ボタン
- ③ 赤ボタン
- ④ 赤ボタン



画面が切り替わったらココで操作

で表示された画面で、開設避難所や避難情報を確認できます

※リモコンの配列はテレビによって異なります。
※赤ボタンは画面が切り替わってから押してください。
テレビによっては表示に時間がかかります。
エリア設定が「いわき市」になっている必要があります。

インターネット

様々なウェブサイトから防災情報を取得することができます。

※ デマに注意

いわき市ホームページ

災害時には、避難情報や避難所開設情報、被害情報、被災者支援などの情報を確認できます。

いわき市ホームページ 検索

避難所の混雑状況確認

避難所の開設状況や混雑状況をVACANというシステムを利用し、地図上で確認できます。

いわき市 避難所 混雑 検索

ラジオ



ラジオでも災害の情報や避難情報、避難所の情報を収集することができます。また、FMいわき(76.2MHz)では防災行政無線の放送を流すこともあります。

防災行政無線



外でサイレン音が続けている場合は、災害が迫っている、または発生している状況です。状況を確認し、避難が必要な場合はすぐに行動に移してください。

携帯電話



避難情報発令など緊急時には緊急速報メール(エリアメール)を配信します。また、市防災メールでは様々な情報をEメールで配信しています。



防災メールの詳細はこちら

防災気象情報を知ろう

気象庁による防災気象情報

高災害の危険性

特別警報

重大な災害の危険性が著しく高まっている状況

土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生の危険性が高まっている状況

記録的短時間大雨情報

1時間雨量100mm以上の猛烈な雨が観測された場合

大雨警報・洪水警報

大雨・洪水により重大な災害発生のおそれのある状況

大雨注意報・洪水注意報

大雨・洪水により災害発生のおそれのある状況

避難情報と取るべき行動

大雨の場合				津波の場合		
警戒レベル	発令される避難情報	状態	具体的な状況	取るべき行動	種類	取るべき行動
5	緊急安確保	災害が発生または切迫	・大雨特別警報が発表 ・河川が氾濫または切迫 ・土砂災害の発生	ただちに命を守る最善の行動をとる	大津波報 (避難指示)	沿岸部や川沿いにいる方はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れず避難を継続。
レベル4までに必ず避難						
4	避難指示	災害の危険が高い	・河川が避難判断水位を超え、氾濫危険水位に到達することが予想される状況 ・土砂災害発生のおそれが高い状況	危険な場所から全員すみやかに避難する	津波報 (避難指示)	より高く、より遠いところを目指して避難すること。
3	高齢者避難	災害のおそれがある	・河川が氾濫注意水位を超え、避難判断水位に到達することが予想される状況 ・今後の気象状況により、土砂災害の危険度が高まると予想される状況	避難に時間のかかる方は危険な場所から避難	津波注意報	海の中にいる方、海岸の堤防より内側にいる方はただちに海岸から離れる。注意報が解除されるまでは海、海岸へは近づかない。
2	—	気象状況の悪化	—	ハザードマップなどで自分の避難行動を確認	—	—
1	—	今後気象状況悪化のおそれ	—	災害への心構えを高める	—	—

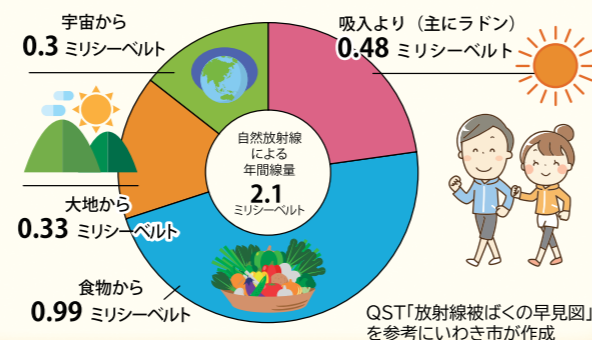
身の回りの放射線について理解を深めよう！

日常生活における放射線

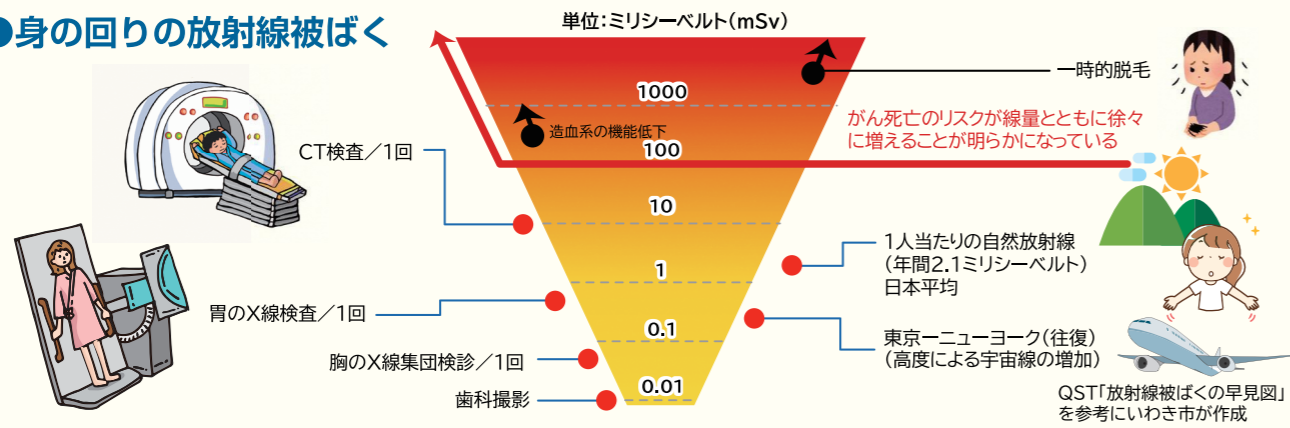
私たちは、日常生活の中で自然界からの放射線を受けて生活をしています。また、病気や診断、治療等で受ける放射線もあります。

放射線は体の細胞などを傷つけますが、私たちの体は傷を修復する仕組みを持っており、日常生活や医療で受ける程度の放射線では、健康に影響が出ることはありません。

●自然放射線の年間線量(1人当たり)



●身の回りの放射線被ばく



放射能・放射線の単位とは？

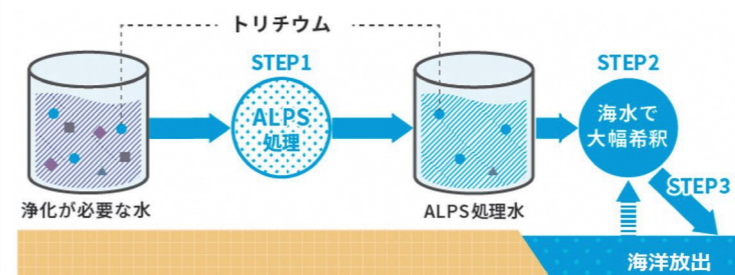
- ベクレル(Bq)・・・放射能(放射線を出す能力)の強さを表す単位
 - シーベルト(Sv)・・・放射線によって人体にどれだけ影響があるのかを表す単位
- 1シーベルト(Sv) 1,000分の1 → 1ミリシーベルト(mSv) 1,000分の1 → 1マイクロシーベルト(μSv)

ALPS処理水の放射線の影響について

福島第一原子力発電所では令和5年8月からALPS処理水の海洋放出が開始されました。ALPS処理水は下図のとおり、国の安全基準を満たすまで浄化した上で放出されます。

海洋放出前に、ALPS処理水に含まれる放射性物質が安全基準を下回ることを確認(※1)します。東京電力のみではなく、専門性を有する第三者として、JAEAも分析を行い、確認します。

ALPS処理のプロセス

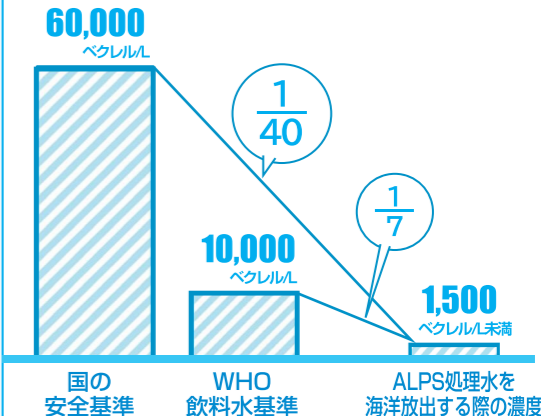


- STEP1** トリチウム以外の核種を規制基準以下に確実に浄化。
- STEP2** トリチウムについても安全基準を十分に満たすよう海水でさらに100倍以上に希釈。
・トリチウム濃度を1,500ベクレル/L未満に※2
・トリチウム以外の核種を規制基準の1/100以下に
- STEP3** 安全基準を大幅に下回るALPS処理水のみを海洋放出。
放出するトリチウムの総量も事故前の基準(年間22兆ベクレル未満)と同様。放出後も、モニタリングにより海域や水産物のトリチウム濃度などを確認。

※1 各段階の測定について、IAEAなどの第三者機関も測定し、客観性を確保。
※2 安全基準の1/40、WHO飲料水基準の約1/7。2015年以降、海洋放出中のサブドレンの水の濃度と同じ。

海洋放出する際のトリチウム濃度は、国の安全基準やWHO(世界保健機関)の飲料水基準を大きく下回ります。

トリチウム濃度の比較



トリチウム以外の放射性物質について安全基準を満たすまで浄化されたALPS処理水は、トリチウムについても安全基準を十分に満たすよう海水で大幅に希釈されます。

出典：経済産業省ホームページ

海域モニタリングの結果は？

ALPS処理水は、国、福島県及び東京電力が実施する海域モニタリングにおいて、これまでのところ安全基準を下回って放出されております。(11月20日第3回放出完了日時点)
また、いわき市においても、いわき市沿岸でモニタリングを実施しており、同様に安全基準を下回っていることを確認しています。
海域モニタリングの結果は、各ホームページで確認できます。(QRコードからも確認できます)

国・福島県・東京電力



いわき市



(包括的・海域モニタリング閲覧システム)

事故前からの線量を比較してみよう！

福島県内の空間線量率

単位: μSv/h

測定年月	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
事故前(平成21年度)	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04	0.05	0.06
平成23年4月	1.91	1.83	0.67	0.19	0.08	0.63	0.37
平成23年9月	1.00	0.88	0.42	0.13	0.08	0.42	0.18
平成24年9月	0.69	0.51	0.21	0.09	0.06	0.37	0.10
平成25年9月	0.33	0.17	0.12	0.07	0.05	0.15	0.09
令和4年9月	0.12	0.07	0.06	0.05	0.04	0.06	0.06

出典：福島県環境放射線モニタリング広報誌ふくモニ

原子力災害が起きた場合の避難の基準は？

いわき市は、福島第一・第二原子力発電所から30Km圏内にあり、市内全域がUPZ(緊急防護措置を準備する区域)に設定されています。
原子力災害時には、状況により、「屋内退避(建物の中に入る)」や「一時移転(1週間程度のうちにその地域から離れること)」、「避難」が必要となる場合があります。
「一時移転」や「避難」の実施は、災害発生時の空間放射線量率の測定値によって判断します。

一時移転、避難の判断基準は？

一時移転：20μSv/h以上の区域の住民等は、1週間程度内に一時移転
避難：500μSv/h以上の区域の住民等は、数時間内に避難

避難方法等の詳しい情報は市ホームページをご確認ください

